

1. 地域で目指すべき働き方

地域の労働市場やビジネス環境

宮城県におけるIT企業の約7割が売上高10億円未満の企業です。事業内容は、ソフトウェア受託開発が最も多く、次いで情報処理・提供サービスとなります。業務の7割以上が同業他社からの下請であり、それ以外は製造業と官公庁からの受注が多くを占めます。受注案件の7割以上が東北地域からであり、他地域からの受注を増やしたいとする企業が多くあります。

また、宮城県におけるIT業界の従事者数は約12,000名になりますが、IT企業の8割以上では人材不足を感じています。特に今後必要とする人材として、プロマネ能力、最新技術に関する専門知識を有する人材により不足感があります。採用活動については、ほとんどが中小企業であり知名度が低いため、厳しい環境にあります。最近では、首都圏大手企業のフルリモート社員の獲得を目的とする地域進出により、人材流出への危機感が高まっています。

企業経営の在り方や従業員の働き方の現状

宮城県のIT企業では、SES（準委任）契約で仕様に従って仕事をするビジネスモデルが多く、仕様内容を提案することはあまりありません。むしろ曖昧な仕様や甘い見積りで着手するケースさえあります。一方、客先常駐が多いため、顧客（発注者）とのコミュニケーションは取りやすく、良好な関係を築きやすいです。

従業員の働き方については、労働時間に係る問題は改善されてきており、時間外労働も平均して10数時間程度となっています。テレワークも以前よりも普及していますが、システム運用等には休日・昼夜問わずテレワークが出来ない業務もあります。客先常駐のため社員のモチベーションやエンゲージメントの維持が課題となることが多くあります。先進技術やDX等を指向する人材が育ち難しいことも課題となっています。

今後の個人の働き方

今後の働き方については、働きがいと働きやすさを求める声はますます高まり、それに経営がどれだけ応えられるかが重要になると考えられます。個人が働き方に求めるものは、やりたい仕事・やりたい自分・社会との繋がりを実現出来る働き方であり、先進技術の活用を積極的に提案出来る働き方であり、リアルとリモートを最適に組合せた働き方であり、自分のモチベーションを高く維持できる働き方等、より多様となります。また、社会的要請として、シニア世代まで長く活躍出来る環境を整備することも求められることでしょう。

特に宮城県としての地域の特徴を考えると、狭い労働市場や世間を意識する風潮の中で、企業との関係、社会での役割、個人と個人との信頼等、働くことを介して良好な関係を築いていくことが求められます。また、働き方により、健康で充実した生活を実現することも大切な視点となります。

地域で目指す方向性

宮城県で目指す働き方の方向として、次の2点を掲げます。

①WLB実現及び自己研鑽に向けて、時間を有効に活用するために“残業ゼロ”を目指す働き方

近年、働き方の見直しや生産性向上の成果により、労働時間に係る問題は改善されつつあり、時間外労働も平均10数時間となりました。更にお客様（発注者）との協力関係を強くし、「残業はしない・させない」を共通認識として、ワーク・ライフ・バランスを実現する魅力あるIT産業のイメージを確立します。

②働き方をデザイン（宮城モデル）

大都市圏にも負けない魅力ある宮城県のIT産業を目指すため、自然豊かで山海の幸に恵まれた宮城県で働くことの価値を高める働き方をデザインします。特に、時間と場所にとらわれないリアルとリモートの最適化による働き方、仲間と、会社・上司と、顧客と、家族と、社会との絆を結ぶコミュニケーションを大切にする働き方、個人の自律と成長を促す働き方について具体的「宮城モデル」を提案します。